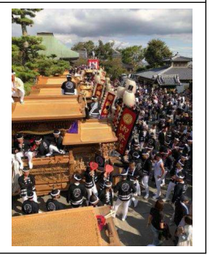
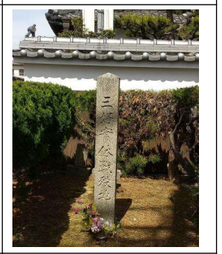
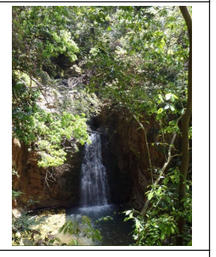
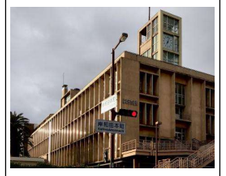
令和４年度「こころに残る歴史・文化景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
1	『威風堂々　岸和田城』 大切な人と行った夜の岸和田城が日中と違って感動しました。相方も岸和田城すごいやんって言ってました。（46歳男性）	
2	『だんじり祭り　宮入りとカンカン場から本通りに①』 南海沿線で小6まで育ち、平成と共に大阪にもどり、近くの祭りを追っかけ撮影するようになりました。初め「だんじり」は、こわくて敬遠してましたが、堺地区でだんじりをやってた上司がわかり、岸和田、泉大津含め、やりまわしを追っかけ出し、当時10年間ほどワイドに望遠に撮りまくりました。「堂々とした宮入り、迫力の商店街ダッシュ」（71歳男性）	
3	『だんじり祭り　宮入りとカンカン場から本通りに②』 南海沿線で小6まで育ち、平成と共に大阪にもどり、近くの祭りを追っかけ撮影するようになりました。初め「だんじり」は、こわくて敬遠してましたが、堺地区でだんじりをやってた上司がわかり、岸和田、泉大津含め、やりまわしを追っかけ出し、当時10年間ほどワイドに望遠に撮りまくりました。「堂々とした宮入り、迫力の商店街ダッシュ」（71歳男性）	
4	『だんじり祭り　宮入りとカンカン場から本通りに③』 南海沿線で小6まで育ち、平成と共に大阪にもどり、近くの祭りを追っかけ撮影するようになりました。初め「だんじり」は、こわくて敬遠してましたが、堺地区でだんじりをやってた上司がわかり、岸和田、泉大津含め、やりまわしを追っかけ出し、当時10年間ほどワイドに望遠に撮りまくりました。「堂々とした宮入り、迫力の商店街ダッシュ」（71歳男性）	
5	『だんじり祭り　宮入りとカンカン場から本通りに④』 南海沿線で小6まで育ち、平成と共に大阪にもどり、近くの祭りを追っかけ撮影するようになりました。初め「だんじり」は、こわくて敬遠してましたが、堺地区でだんじりをやってた上司がわかり、岸和田、泉大津含め、やりまわしを追っかけ出し、当時10年間ほどワイドに望遠に撮りまくりました。「堂々とした宮入り、迫力の商店街ダッシュ」（71歳男性）	
6	『久米田寺　行基参り』 寺に13台のだんじりが入る　日本でも珍しい祭り（57歳男性）	

令和４年度「こころに残る歴史・文化景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
7	『岸和田市の和泉葛城山の山頂にある八大竜王社参道。』 何時もは車で行き　神社の裏からお詣りですが、神社正面の一の鳥居を見たいと思って石段を降り始めたら先が見えない程の参道でした。岸和田にこんなに長い石段の神社があるんですね。（57歳男性）	
8	『三好実休の碑』 永禄4年（1562）久米田寺付近で実休を総大将とする三好軍と畠山軍の合戦となり、実休は流れ矢にあたって戦死、三好軍の敗北となりました。（53歳女性）	
9	『積川神社遥拝鳥居（小松里町）』 額町には白河上皇・後鳥羽院遥拝地跡があり、白河上皇が熊野御幸の際舞楽を奏された時、鳥居の額の字が拙いのを見、自ら筆をとり「正一位積川神社」と書かれたという扁額が掲げられています。このことから、周辺一帯を現在も「額」と呼んでおり、額町だんじりの枡合に白河上皇積川神社遥拝の彫物が彫られています。（53歳女性）	
10	『新しい出会いの場』 ここにはいつも可愛そうなかわいい猫ちゃんが居てます。私がこの猫ちゃんたちと風景に出会ったきっかけは友達の勧めです。 お勧めしてもらった以来、放課後に友達と毎日一緒に見に行ってます笑 私の大好きな場所です。 この場所は猫ちゃんたち、綺麗なお花に集まる蜂、餌を運ぶアリ、ベンチでお話する人々など沢山の出会いと発見があります。 何年経っても、この風景はなくなってほしくないです。（17歳女性）	
11	『雨降りの滝（意賀美神社）』 ９世紀の大干ばつの際、陽成天皇の命で菅原道真が雨乞い神事にあたり、この水を神前に供え、雨を降らせたことから「水の神」としての信仰を集めたこの場所は、周辺の自然なままの植生が残る意賀美神社の社叢とともに、こころに潤いを与えてくれる景観スポットとなっています。 　ここへ来ると、春、秋のハイキング日和の日にこの場所を訪れ、心地よい鳥の鳴き声やそよ風に迎えられた思い出や、夏真っ盛りの猛暑の日にここで涼ませてもらったことが思い出されます。（59歳男性）	
12	『門前町ロータリー』 このロータリーは、泉光寺につながる道４本が交差しています。 子供のころ父の運転する車で、家から母の実家へ向かうときに必ず通りました。 近年、幹線道路の整備が進んだため、あまり通ることもなくなりましたが、ロータリーの所と言えば、「門前町のロータリー」をイメージします。 （50歳男性）	

令和４年度「こころに残る歴史・文化景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
13	『岸和田SA（サービスエリア）』 ここは、阪和自動車道の和歌山から大阪へ向かう岸和田SAです。 内畑町から、高速に乗らなくても、このサービスエリアに入ることができます。 このサービスエリアができた時は、家族でわざわざここにきて、外食をして、高台となっているところからは、PLの花火を見た思い出があります。 (50歳男性)	
14	『岸和田市役所庁舎』 言わずと知れた岸和田市役所。横を通るはこなから坂。子どもの頃はよく「市役所の坂」と呼び、向かいに市民会館、坂下には岸和田警察署と３点セットで建ち並んでいました。 まもなくこの庁舎も、建て替えでその役割を終えようとしています。昭和ど真ん中世代の私には、今は無き３点セットのモダンな光景が今も生き生きと脳裏に浮かびます。ああ、もう一度、市役所のミュージックサイレン聴きたいなぁ・・。(60歳男性)	
15	『岸和田城八陣の庭』 私が幼稚園児だった昭和28年、翌年の天守竣工に先立って八陣の庭が完成した。紀州の結晶片岩の石組みと波紋を描く白川砂のみによる作庭に当時の市民は度肝を抜かれたと思う。天守に登って初めて見る八陣の姿、時代を先取る斬新な造形は程なく市民権を得て他にない自慢の庭となった。重森三玲による作庭は独創的な現代庭園として高く評価され、作庭から60年を経て2014年国の名勝に指定された。(74歳男性)	
16	『五風荘庭園と家屋』 小学生の頃「寺田の別荘」の荒れ放題の庭を「探検」した思い出がある。今、回遊式庭園は美しく整備され市民に開放されている。岸和田藩新御茶屋跡に建つ延べ300坪の木造家屋(現在は食事どころ)は、庭に配された三茶室とともに匠技の粋を凝らした日本建築。昭和の戦前戦後の激変を生き延びた歴史文化景観と云える。	
17	『杉江能樂堂』 大学時代、当時の堂主谷口公一氏から謡曲を習つた。最後の岸和田藩主岡部長職公揮肇の扁額「国華」が正面を飾る。大正6年の建立から百年を超える大阪府下最古の民間能舞台。現在レンタルスペースとしての設備を整え，新しい創作空間への道を模索している。2022年度国登録有形文化財に選定された。(74歳男性)	
18	『自泉会館』 子供の頃地下が半分水没した会館で遊んでいた。動物の死骸が浮かぶ怖い場所だつた。昭和7年竣工、施主寺田甚吉、設計渡辺節、施工大林組、岸和田紡績の倶楽部施設として建てられたスパニッシュ様式の好作品である。前年竣工の綿業会館(重文)との類似項をもつ。現在は市のギャラリーとして利用される国登録有形文化財。(74歳男性)	

令和４年度「こころに残る歴史・文化景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
19	『城内武家屋敷群』 岸城町には大きな屋敷地がまだ幾つか残つている。その多くは家老職や上級武士の 屋敷(跡)である。写真4家のうち3家は玄関左右に与力窓を備えた長屋門を持つ。本町の商家群、紀州街道の近代銀行建築群とならんで岸城町の城内武家屋敷群を歴史文化景観として登録しておきたい。写真は田代、山岡、佐々木、岸村の各家(74歳男性)	
20	『岸和田復活教会』 小学生の頃姉に誘われ、ウサギが画かれたゆで卵のプレゼントを目当てにクリスマスミサに参加した思い出がある。設立は古く明治34年の日本聖公会岸和田教会、昭和16年本町から現在地に移転、私たちは親しく「岸城町北の教会」と呼んでいた緑に囲まれた蒲洒な教会だが、地域の確かな歴史文化景観を形成している。(74歳男性)	
21	『和田家住宅』 子供の頃、「和田の御殿」と呼んでいた建物がある。昭和5年の建築で御殿に相応じい威厳ある入母屋の大破風を持つ総三階の和風住宅である。2002年主屋、長屋門(写真)、蔵他が国登録有形文化財に登録されている。(74歳男性)	
22	『旧和泉銀行本店』 昭和8年1933年竣工、施主寺田甚吉、設計渡辺節、施工藤木工務店と伝わる建物で、紀州街道沿いに多く残る近代銀行建築群の一つである。70年間複数の銀行店舗の時代を経て、2005年に有意の人々の努力により復元改修され、現在国登録有形文化財となつている現役のオフィスビルである。(74歳男性)	
23	『旧岸和田村尋常小学校校舎』 明治36年岸和田城内に造られた最初の小学校校舎。後年城内小学校の南上町移転の後岸城幼稚園他として使用され、昭和27年市立図書館のある場所に移転した岸城幼稚園本校舎は、私も通園した思い出深い御殿風校舎です。市制60周年を記念して中央公園「紅葉館」として移築復元され、平成9年国登録有形文化財となる。(74歳男性)	
24	『兵主神社本殿と社叢』 春木川遊歩道沿いに鎮座する延喜式内社で、天照皇大神、人幡大神、菅原道真公を祀る。桃山時代の三間社流造本殿は国の重要文化財に指定されている。社叢はその本殿を取り囲むようにクスノキやクロガネモチを主体とする鎮守の森を形成し、市指定天然記念物。また能面「天降の面」9面が市指定有形文化財となつている。(74歳男性)	

令和４年度「こころに残る歴史・文化景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
25	『命の源水と神様が祀っている山』 岸和田にある神於山には命の源水とも言われている水の文化があり神様が祀っている歴史も残されています。（33歳男性）	
26	『桜と釣り鐘』 小学生の時に、学校からの写生授業で絵を書いた時と、ここは変わっていないし、歴史を感じる場所・景観だと思いました。（47歳男性）	
27	『新縁の千亀利神社』 岸和田の町の中でも、縁や空気がキレイに感じるオアシスのような景観だと思います。（47歳男性）	
28	『満開の久米田寺』 寒い時期を越えて、ようやく来た、春を、満喫できる景観・場所。（47歳男性）	
29	『神於山家庭菜園より見る農地、市街地、茅渟海』 岸和田市に移り住んで約半世紀。現役時代の早朝勤務、日付が変わってからの帰宅という生活から解放されたのは定年後である。 　縁あって神於山の麓で借りた家庭菜園から望む農地、市街地、茅渟海（大湾）、神戸の町並み、六甲山へと続くパノラマは、今では私の第2の故郷として脳裡に定着した。この地に移り住み、人、風物の数々と共生できる日々に感謝いっぱいである。（83歳男性）	
30	『心のふるさと』 約40年前岸和田に転勤となり、以来久米田池は心身を癒してくれました。退職してからも、まず久米田寺に参拝して、周辺の野鳥撮影を楽しんでいます。水辺や鳥の鳴き声を見・聞すると、今は心のふるさととなりました。（72歳男性）	

令和４年度「こころに残る歴史・文化景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
31	『摩湯山古墳』 摩湯山古墳は、実家の近くにあるため、昔からよく車で通っている道沿いにあります。ただの池と山だと思っていましたが、小学校の社会の授業で、昔にこの地域を治めた偉い人のお墓だと学び、どんな人がこの場所に眠っているのか、邪馬台国と山直は読み方が似ているからもしかしたら卑弥呼！？…と、この古墳について友達と話をした記憶があります。現在の日常に溶け込んでいるこの古墳は、昔はどんな景観の中に佇んでいたんだろう…。摩湯山古墳の前を通るたびに歴史に思いを馳せています。（32歳女性）	
32	『岸和田市役所』 令和４年で市政100周年となる岸和田市は、大正11年11月1日、府下3番目に誕生しました。この庁舎も古くてボロボロだけど愛着があり、近い将来見られなくなると考えると少し寂しいです。この庁舎のある景観は心に残しておきたいと思いました。（32歳女性）	
33	『自泉会館』 それは、「失われた近代建築」（講談社）の一冊から始まる。 かつて“大大阪時代”の戦前に、大阪ビルディング（略してダイビル）一号館のロマネスク様式の建築、其の上方にある魑魅魍魎とした動物の顔に心を奪われた。その稀有の建築家の名前は、渡辺節である。当時、最新式のアメリカのビルディング設計をいち早く国内に導入、数々のビルディング、そして名だたる銀行（本店）を建築していった。 　現存する建物として、綿業会館、商船三井ビル、旧乾邸、そして、あまり、知られていない“自泉会館”　（国有形）。この城下のもとに人知れずたたずむす珍しいスパニッシュ様式の“自泉会館”をもっと多くの人に知ってほしい。この岸和田にあるとは、誇りである。この建築空間をホール、多目的に活用し、未来へ輝いてほしい。（64歳男性）	
34	『恋の淵』 普段はバイクで行く買い物を、たまたま歩いて行きました。 村の中道を抜けて行くと、恋の淵由来と書かれた石碑がありました。（73歳女性）	
35	『静謐』 私は高校で写真部に所属しており、カメラを持ってよく散歩に出かけます。 5月のある休日に、カメラが趣味の父と一緒に撮影に出かけました。とてもお天気のいい日だったので、自転車に乗って積川町のあたりを散策してみたところ、いつもは車で通り過ぎてしまうばかりで見過ごしてしまっていたこの景色に出会うことができました。まるで時を止めたような荘厳さを感じさせるたたずまいに、私と父はしばらくシャッターを切ることも忘れてしまったように眺めつづけていたことも心に残っています。（17歳女性）	
36	『世界かんがい施設遺産』 馴染み深い久米田池が、平成27年に世界かんがい施設遺産に登録されました。子供の頃は池の水が引いた際にザリガニ取りをした記憶があり、今も多くの鳥の姿が見られます。ため池ならではの池底への階段もあります。昔は周辺に田んぼも多くあり、世界かんがい施設遺産に登録されたことは、灌漑施設として地域の大切な役割を担っていたのだなと改めて感じるきっかけになりました。（39歳男性）	

令和４年度「こころに残る歴史・文化景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
37	『七五三の登城・八陣の庭でばあばが見守る』 八陣の庭は1953年、作庭家・重森三玲氏が57歳の作品。写真を撮った私、当時58歳と近い年齢で対峙した。 私は岸和田の旧市の生まれなので、お城は庭のように友人たちと遊び回っていた。石垣をよじ登り、松の木の蝉を取り、猿小屋の前で真っ黒に煮詰まった関東炊を頬張った。無論、この八陣の庭でやんちゃをしたであろうが、その記憶は無い。塀の狭間から城下町を眺め、手製の竹刀を持ち、なぜか風呂敷マントを翻しながらキーハンターごっこに余念がなかったあの頃、この庭は確かに在り、私たちを眺めていた筈なのにである。どこか、入っちゃいけない結界のような凄みを感じていた。 時は移ろい、今。ググってみると、中央に大将、その周囲に虎、風、天、地、雲、竜、鳥、蛇の各陣に見立てた石群を配したもので、諸葛孔明の均衡のとれた布陣を表すとある。攻めるより守る＝平和への願いを込めた陣形を表していると。なるほど。この世界観は、息子にも味合わせてやりたい。ただ、解説せず、大人になってハッと気づくようにそっと導く。 ５歳まで、大病せず生きて呉れた七五三のお祝いに、母を連れて久しぶりに訪れた。無邪気にだんじりの大工方のようだと着物をひらめかせながらはしゃぐ傍らにそっと、母と八陣の庭。そう、ずっとこのまま、然し確かに成長を見守る風景がそこに在った。（61歳男性）	
38	『正覚寺の鐘楼と枝垂れ桜』 岸和田市内には桜を鑑賞できる場所がたくさんありますが、特にこの正覚寺の枝垂れ桜は美しく情緒深いので紹介したいと思います。鐘楼と桜の組み合わせは絵画の中の世界のようで歴史を感じさせます。写真はあいにく雨天時に撮影したもので映えませんが、一見の価値がありますのでシーズンには是非足を運んでいただきたいものです。（36歳男性）	
39	『久米田寺』 とても歴史のある素敵なお寺です。 遠くに住んでいるお友達もよく来ると言ってました^ ^高校の日本史の授業でも少し勉強し、興味を持って訪れたことが久米田寺と出会ったきっかけです。（17歳女性）	
40	『兵主神社の参道』 行き慣れた兵主神社の参道が新緑でとても綺麗だったので撮影しました。（76歳男性）	
41	『元朝酒屋』 　創業1810年の酒造で祭りの時期にはだんじりが目の前を通ると入って一服する人も！ 店内に入るとずらりとお酒の数々。立ち飲みができるので、気軽に立ち寄ることができる。つまみもおいしいのでお酒好きにとっては最高の場所です。こういう酒屋も少なくなり残していきたい景観です。（22歳男性）	

令和４年度「こころに残る歴史・文化景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
42	『浪切神社』 浪切神社では毎年、岸和田だんじり祭が行われる2か月ほど前に祭礼の安全を祈願するために、各町の少年団から町会の長が集まり安全祈願祭が行われる。そのためだんじり祭りをする上ではなくてはならない場所である。（22歳男性）	
43	『土生神社、初詣』 土生神社は、私が子供のころによく遊んでいた神社です。 セミ取りや、ザリガニ釣り、ブランコやシーソー、滑り台などの遊具もあってとても楽しかった。 今では実家からも離れ、来ることはなくなりましたが、毎年正月に家族で返ってきたときは、家族で、土生神社に初詣に行き、おみくじで今年の運勢を占います。 （50歳男性）	
44	『山直神社』 山直神社の本殿は、大阪府の指定文化財に指定されている。 泉州高校には、幾度も訪れたことはありますが、坂の途中にあるこの神社に立ち寄ったことは、ありませんでした。 この本殿からは、異次元の空間が広がり、歴史と文化が感じられます。 （50歳男性）	
45	『小金塚古墳』 黄金塚住宅内に小金塚古墳があります。 古墳としての規模も小さく、交差点の中に納まっていますが、市の指定史跡に指定されています。（50歳男性）	
46	『岸和田だんじり祭　灯入れ曳行』 風土と景観の中に見る素晴らしき灯入れ曳行！こうした時代だからこそ日本の魅力を再認識し未来の発展と環境づくりにと岸和田は輝き続けてください。（84歳男性）	
47	『酒蔵の杉玉』 岸和田市で唯一残る造り酒蔵で、稲葉町にある井坂酒造場。その軒先にある杉玉。 初めて見たときは一体何なのか分かりませんでしたが、新酒の搾り始めを告げる風物詩で、古民家や蔵と共にこの場所ならではの風景となっています。 飾り初めは緑色で期間が短く、徐々に枯れていき、茶色がかっていくので、緑色の杉玉を見たときは心の中でラッキーと言っていました。（47歳男性）	